

## 合併処理浄化槽への転換費用を補助しています

問合せ 防災環境課 環境担当 ☎0495-77-2124 FAX0495-77-3915

住宅に設置されている単独処理浄化槽または汲み取り便槽から合併処理浄化槽へ転換を行う場合、補助金を交付しています。

合併処理浄化槽に転換することで、放流水の水質改善を図り、快適な生活環境をつくりましょう。

対象区域 下水道事業区域(渡瀬・元原の一部、熊野堂の一部)以外の地域

補助基数 人槽を問わず、20基(先着順)

補助金額(上限)	5人槽	7人槽	10人槽
設置補助金	444,000円	486,000円	576,000円
配管費	64,000円		
撤去・処分費	60,000円		

受付期間 申請受付を開始しています。

注意点 ●補助対象は、販売・賃貸目的ではない専用住宅または店舗併用住宅(居住部分が1/2以上)で、10人槽以下の合併処理浄化槽に転換する場合があります。

- 補助対象の浄化槽は、高度処理型で、かつ環境配慮型の性能要件を満たす浄化槽に限ります。
- 新築、増改築(建築確認申請を必要とする)に伴い合併処理浄化槽を設置した場合は、対象外です。
- 工事費が上記の金額を下回る場合は、実際に要した工事費用が補助金額になります。
- 工事がすでに着工または完了しているものは対象になりません。
- 20基に満たない場合でも、予算に達し次第、受付は終了となります。

## ご存知ですか？ 災害の「警戒レベル」

問合せ 防災環境課 防災担当 ☎0495-77-2124 FAX0495-77-3915

### 【避難情報の発令】

町内で災害の発生が予測されるときは、下記の警戒レベルに応じた避難情報を防災行政無線、防災メール、町ホームページで発令します。

警戒レベル	とるべき行動
警戒レベル5「緊急安全確保」	命の危険があることからただちに安全を確保してください
警戒レベル4「避難指示」	危険な場所から安全な場所へただちに避難してください
警戒レベル3「高齢者等避難」	避難に時間がかかる人は避難を開始してください

※町から避難情報があつた場合は、警戒レベルに応じた行動を取りましょう。

※警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。避難所などへの避難がかえって危険な場合は、その時点で最も安全な避難行動を取りましょう。

### 【避難とは？】

避難とは、天気予報や台風の進路などが事前に予想ができる場合に、安全な親戚や知人宅に早めに移動することや、町が指定する避難所へ移動するなど、危険な場所から移動し「安全を確保」することです。



ハザードマップ

➡ハザードマップを使って、住家周辺で想定される災害に備えた安全対策や非常持ち出し品の準備をおきましょう。

## こんにちは 保健センターです

問合せ 保健センター ☎0495-77-4041 FAX0495-77-0550

### がん検診を受けましょう

新型コロナウイルス感染症により、検診を受ける機会を逃した方も多くいます。「コロナが落ち着いてから」ではなく、自分の健康のために検診は毎年受けましょう。

#### がんの大きくなる速さ

1つのがん細胞が1センチの大きさになるまで10年から15年かかります。しかし、1センチのがんが2センチになるには、1年から2年しかかかりません。

#### 自覚症状がなくても毎年検診を受けましょう

早期がんと言われる状態を見つけられる期間は1～2年です。しかし初期には自覚症状がない場合が多いため、発見には毎年の検診が重要になります。「2人に1人ががんになる」と言われています。毎年の検診を習慣にしましょう。部位による違いはありますが、早期がんで見えられた場合約90%が完治します。

町のがん検診は無料で受けることができますので、年に一度は町のがん検診を受診しましょう。



#### 個別がん検診の申込み受付中です

個別がん検診は、令和5年3月31日(金)まで実施しています。個別がん検診の内容については、下記のとおりです。申込まれた方に対しては、緑色の受診券が送付されています。申込みがお済みでない方は保健センターまでご連絡ください。町ホームページ→



個別検診項目	対象者	検査方法
胃がんリスク検診	40歳以上の男女	血液検査
大腸がん検診	40歳以上の男女	2日分採便し、便に混じった血液を検査
前立腺がん検診	40歳以上の男性	血液検査
乳がん検診	20歳以上の女性	マンモグラフィー(乳房X線検査)・視触診検査
子宮頸がん検診	20歳以上の女性	視診・内診・子宮頸部細胞診検査

#### 20歳を過ぎたら、子宮頸がん検診を受けましょう

子宮頸がんは、子宮の入り口である子宮頸部の表面の細胞にがんができる病気です。

日本では年間約3万3,000人が子宮頸がんになり、その内約2,900人が亡くなっています。

子宮頸がんの原因はウイルスの持続的な感染です。一般的にがんは、年齢とともに発症が増えますが、子宮頸がんは20歳代や30歳代で増加傾向にあります。初期の子宮頸がんはほとんど自覚症状がありませんので、症状がなくても20歳を過ぎたら定期検診を受けましょう。定期的に検診を行って子宮頸がんを早期発見できれば、子宮を残すような手術を行うこともできます。